



金曾木だより

台東区根岸4-16-22 TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507
<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218>

令和5年度 6月号
台東区立金曾木小学校
校長 細田 儀広
令和5年5月31日(水)

教育目標 たくましい子 自ら学ぶ子 思いやりのある子 自分のよさを伸ばす子
花咲く多様性

副校長 前田 剛一

「世界に一つだけの花」という槇原敬之さんが作詞・作曲を手掛けた曲が大ヒットしてから、今年で20年経つそうです。「♪ナンバー・ワンにならなくてもいい もともと特別なオンリー・ワン」という歌いだしで始まる楽曲は、人気絶頂だったアイドルグループが歌ったことで、非常に多くの機会に耳にし、学校でも運動会や学芸会など、様々な行事で使われたり歌われたりしました。当時はまだ、「多様性」という言葉を今ほど耳にする機会が多くなかったと思います。そんな中で、楽曲の大ヒットに伴い、競争を否定するような歌詞に疑問をもつような声も聞こえてくるなど、今にして思うと多様性の先駆け的な曲だったのかもしれない。

初夏を迎え、自然界に目を向けてみると、私たちの身の回りには色とりどりの花が咲いています。黄色、赤色、紫色、青色、白色など、実に様々ですが、ときどき不思議に思うことがあります。自然界は適者生存の世界で、優れたものが生き残り、劣ったものは滅んでいく法則です。それなのに、どうして色とりどりの花があるのでしょうか。もし、黄色い花が優れていれば、世界中の花は全て黄色に進化していくはずですが、実際にはそうならず、様々な花の色があります。ある植物学者のエッセーにはこんなことが書かれてありました。「自然界にはさまざまな環境があります。場所が変われば正解が変わります。季節が変われば正解が変わります。自然界にはさまざまな居場所があり、さまざまな正解があります。」

私たち人間はどうでしょうか。自然界に限らず、世の中は実に多様で複雑です。それを理解するのは簡単ではありません。そこで私たち人間の脳は、ばらばらでたくさんあるものを、グループ分けしたり順番を付けたりすることで、整理して理解しようとする仕組みをもっているそうです。その結果、点数を付けたり順番に並べたりして比べることが大好きなのだそうです。

6月3日(土)は、創立120周年記念大運動会が開催されます。全校競技、応援合戦、団体競技、表現運動、リレー、短距離走などで、子どもたちは日頃の体育科の成果を発表します。表現運動では、気持ちと動きを揃えて全体の美しさや面白さを発揮しますが、その中で、一人一人の個性が花咲きます。短距離走ではあえて順位を付けないこととしました。昨年度も順位は付けませんでしたが、順位を付けなくても金曾木小学校の子供たちは、一生懸命全力で取り組むことが分かったからです。今年のスローガンは、「120周年にいる奇跡のメンバーと、勝ち負けの先にあるものをつかみとろう」です。スローガンのとおり、勝負を超えた先にある何かを目指し、一人一人がその花を咲かせることに一生懸命になる姿をご覧いただきたいです。